

重監房とは何だったのか

ハンセン病隔離政策の “負の遺産”を考える



2014
3/1

予約不要。どなたでも入場できます。
団体での入場はお問合せください。

土

開場 13:00 /
開演 13:30 ~ 16:00

入場
無料

ベイシア文化ホール

(群馬県民会館)小ホール 前橋市日吉町1-10-1 tel.027-232-1111



「県民会館前」下車
※駐車台数に限りがございます。
できるだけ公共交通機関を御
利用いただきますようお願い
申し上げます。

- お問合せ先/重監房に関するシンポジウム事務局[(株)セブンサービス企画装飾 北関東営業所
TEL.050(3541)5380 FAX.027(373)9477 ※平日9:00~17:00(12:00~13:00を除く)e-mail/kitakan@sevenservice.co.jp]
- 主催/厚生労働省
- 共催/国立療養所栗生楽泉園、栗生楽泉園入所者自治会、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会、ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会、日本科学技術振興財団
- 後援/文部科学省、法務省、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、NHK、前橋市、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、草津町教育委員会、群馬県私立中学高等学校協会、(一社)群馬県専修学校各種学校連合会、上毛新聞社、群馬テレビ、エフエム群馬、日本皮膚科学会、日本ハンセン病学会、栗生楽泉園とまちの明日を創る会、ハンセン病市民学会(一部申請中)

重監房とは何だったのか

ハンセン病隔離政策の “負の遺産”を考える

開催趣旨

ハンセン病に対する隔離政策の歴史において、国立療養所栗生楽泉園内に設置されていた重監房の実情を負の歴史として後世に伝えるとともに、ハンセン病に対する偏見・差別の解消をめざします。

プログラム

● オープニング

合唱／ともに生きる会(群馬・ハンセン病訴訟を支援しともに生きる会)



● 主催者代表挨拶

● 基調講演

宮坂道夫氏(新潟大学医学部教授)

● シンポジウム

コーディネーター／宮坂道夫氏(新潟大学医学部教授)

パネリスト／**筈 雄二氏**(栗生楽泉園入所者自治会副会長)

鮎京真知子氏(弁護士)

黒尾和久氏(国立ハンセン病資料館学芸課長)

※会場からもご意見を伺う予定です